



報道関係者各位
プレスリリース

2022年4月1日



高圧ガス保安協会
The High Pressure Gas Safety Institute of Japan

高圧ガス設備の供用適性評価に基づく耐圧性能及び強度に係る次回検査時期設定基準(KHK/PAJ/JPCA S0851)の改正について

【今回の改正のポイント】

- ①深い減肉に対して補修を行うことなく設備の継続運転が可能に
- ②溶接補修後の耐圧試験が省略できる対象範囲が拡大

本基準は、供用中設備の使用環境や運転実績データを踏まえ、より合理的な設備の余寿命予測及び維持管理を行う設備の健全性評価に基づいて、プラントの装置に用いる機器、配管系等を対象に供用期間中検出される損傷に対し、設備の耐圧性能等に係わる検査の次回検査時期を定める基準であり、高圧ガスの認定事業所において活用されています。

また、本基準は、高圧ガス保安協会（KHK）、石油連盟（PAJ）、石油化学工業協会（JPCA）の3者共同規格となっています。

本基準について、KHKの供用適性評価規格委員会での審議結果を踏まえて、2014年版から2022年版として、以下のとおりの改正を行いました。

【主な改正内容】

①減肉評価区分Ⅱの追加

設備の設計時の最小厚さ未滿となるような減肉について評価を行うための、評価区分Ⅱの減肉評価法（附属書5A：p-M法による評価、附属書5B：WES2820※による評価）を追加しました。

なお、この2つの評価方法については、その違いや特徴を十分理解した上で、事業者の責任において判断して、手法を選択できることとなっています。

これにより、例えば、深い減肉があった場合に補修を行うことなく設備の継続運転が可能かどうかの判断などができるようになります。 ※WES2820 圧力設備の供用適性評価方法-減肉評価（日本溶接協会規格）

②溶接補修後の耐圧試験の要否等に関する規定の追加

KHKS0850-3 保安検査基準による溶接補修後の耐圧試験の要否判断（いわゆる6点法）に加えて、6点法以外の溶接補修後の耐圧試験の要否を判断するための基準を追加しました。

これにより、合理的な耐圧試験の要否の判断を行うことで、耐圧試験が省略できる対象範囲が広がります。

詳しくは当協会の下記ウェブサイトをご覧ください。

URL：https://www.khk.or.jp/technical_standards/sc_ffs/ffs_s_committee.html

【本発表に関するお問合せ先】

高圧ガス保安協会 保安技術部門 担当：小山田、名倉、宮下

電話：03-3436-6103 FAX：03-3438-4163 Mail：hpg@khk.or.jp URL：www.khk.or.jp